

# 気ままに ブックトーク!

## #7 「日本の芸能で1冊」



参加した7人(初めての方もおひとり)が紹介した「日本の芸能」は、歌舞伎、文楽、落語、能でした(次ページ参照)。ひとりずつおすすめの理由を紹介してもらう間にも、コメントが飛び交いました。

映画『国宝』を見て歌舞伎についてもっと知りたくなったが、図書館の歌舞伎関連の本がほぼ予約待ち! それで『歌舞伎の中の日本』を読んだ。その著者の「松井今朝子さんがすごい!」と『師父の遺言』を読んだ方が、松井さんが作家、舞台制作など歌舞伎にかかわるあれこれを師匠に鍛えられたと教えてくれました。「昔、新聞屋から3階の券をもらって、歌舞伎座に行った」「音声ガイドが便利!」と盛り上がりました。

歌舞伎より文楽が面白いという方が2人。「いま実写よりアニメが面白というが、アニメがなかった時代は歌舞伎より文楽がおもしろいと感じたかも」「人間が演じるのは生々しすぎる。人形というオブラートがあるからこそ、作家が描きたかったものがかえって届く。」「『あやつられ文楽鑑賞』で紹介されている太棹の鶴澤燕二郎さんが六世燕三になっただけでいさつから、文楽は世襲ではなく実力、歌舞伎より真摯!」「文楽の作品は、人間の眼ではなく1つ高いところから描かれている」「文左衛門はドストエフスキーより天才だ!」

「能は面をつけて演じるが、かえって表情がわかる」「父が四十数年観世流の謡をしていて、家に能面が飾ってあった。子どものころ、すごく怖くて夢の中でも追いかけられたことがある」と、能の本を紹介したふたりから合いの手が。「能は基本、鎮魂の芸能。見ている人も歌舞伎や祭などのように熱狂しない空間であるところに魅かれる」とも。

『小説 芝浜』は「芝浜」ほか落語の断を小説化した本。落語では庶民や下級武士が善人として描かれていると語ってくれた。そこから話題は江戸時代の徹底した資源回収へ。し尿が売られていたこと、子どものころ畑に肥溜めがあったことなどの思い出話つながりで、映画「せかいのおきく」を鑑賞した方から「この映画、ほとんどモノクロ。そうでなければ見れないから」と紹介があり、一同大爆笑。

『新編 日本の面影』を持参した方からは、日本の文化が自然のおそれともよりそのようなところがあること、そのことに気づいたラフカディオ・ハーンの感性について紹介がありました。

### 気ままにブックトーク 次回以降の予定

\*2026年3月21日(土)10:00~14:00 おかがみふれあいまつりでブックカフェ「わたしの推し」

\*2026年4月24日(金)13:30~「多文化」で1冊!



図書館ひろばは、予約なし・参加費無料の、気軽にみなさんが集える場所です。事業をやってみたい方は、ぜひ岡上分館までお問い合わせください。

■川崎市麻生市民館岡上分館■

〒215-0027 神奈川県川崎市麻生区岡上3丁目15-5

TEL:044-988-0268

<p>『マンガでわかる文楽 あらすじから見どころ、歌舞伎との違いまで全部わかる』</p> <p>マンガでわかる文楽編集部 [編集] 佳山泉 [執筆協力] 上島カンナ [イラスト] 公益財団法人文楽協会 [協力] 誠文堂新光社 2019年3月</p>	<p>『歌舞伎の中の日本』</p> <p>松井今朝子 [著] NHK出版 2010年3月 (現在、単行本品切れ。文庫あり：集英社文庫)</p>	<p>『師父の遺言』</p> <p>松井今朝子 [著] NHK出版 2014年3月 (現在、単行本品切れ。文庫あり：集英社文庫)</p>
<p>『あやつられ文楽鑑賞』</p> <p>三浦しをん [著] ポプラ社 2007年5月 (文庫あり：双葉文庫)</p>	<p style="text-align: center;"><b>日本の芸能 わたしの1冊!</b></p>	<p>『能の本』</p> <p>村上ナツ [文] つだゆみ [マンガ] 辰巳満次郎 [監修コラム] 西日本出版社 2016年11月</p>
<p>『芝浜：落語小説集』</p> <p>山本一カ [著] 小学館 2016年9月 (文庫あり：小学館文庫)</p>		<p>『新編 日本の面影』</p> <p>ラフカディオ・ハーン [著] 池田 雅之 (翻訳) 角川ソフィア文庫 KADOKAWA/角川書店 2000年9月</p>

そのほか詳細された本など

- 『円朝の女』 松井今朝子、文藝春秋、2009年11月
- 『女性芸能の源流 傀儡子・曲舞・白拍子』 脇田晴子、KADOKAWA、2001年10月
- 『新訳 更科日記』 島内景二、花鳥社、2020年
- 『花より花の如く』 成田美名子、白泉社、花とゆめコミックス、第1～24巻〈完結〉、2003年7月～2026年2月
- 映画「せかいのおきく」監督：阪本順治、出演：黒木華、寛一郎、池松壮亮ほか、89分、2023年、配給：東京テアトル、U-NEXT、リトルモア
- 連続人形劇『新八犬伝』（脚本：石山透、人形：辻村ジュサブロー、語り：坂本九）NHK総合テレビ、NHK、1973～75年（全464話）